

まちの心の玄関

日野駅舎完成



多くの皆さんからのご寄附
ありがとうございます
引き続きご支援、ご協力を
お願いいたします

近江鉄道日野駅再生プロジェクト事業は、多くの皆さんの温かいご支援とご協力のおかげで、平成29年1月から駅舎再生工事が開始され、7月末で完了し、8月1日から新駅舎の使用が開始されました。

新駅舎は駅務室と待合室のほかに、新たに「日野駅観光案内交流施設」が設けられ、利用者の方が電車の待合場所やカフェで一息いれる憩いの場などに活用したり、日野町を訪れた方に観光地へ案内する拠点施設として、交流が活発におこなえるよう整備されました。

100年の歴史を誇る愛着ある駅がこれからもまちの「たから」として多くの人に活用され、人と人との交流が深まることを願っています。

心やすらぐ空間に

交流スペース「なないろ」

日野駅舎再生に伴い、新たな観光情報発信と交流の拠点として「日野駅観光案内交流施設」を設置しました。この施設の名称を募集したところ、町内はもとより県内外の多くの皆さんにご応募いただきました。応募数は70点あり、皆さんの様々な思いが込められた名称ばかりでした。その中から、次のとおり名称を決定しました。

名称「なないろ」
応募者「岡雅子さん(北畑)」
なないろに込めた思い

「わたむきホール虹」の名称が決まったとき、日野は7つの地区から成り立っているという意味で「虹」と決まったと記憶しています。関連を持たせ、セブンカラーを意識したネーミングで「なないろ」が良いと思いました。そして、学生さんから年配の方々まで覚えやすいひらがなにするというなと思いました。

「なないろ 行く?」や「なないろに3時ねろ」という会話が日野駅を中心に7地区で聞こえ、近江鉄道の各駅で通じるスペースになってほしいなと思います」





▲明治33年10月1日の様子

日本で鉄道がはじめて走ったのは今から145年前の明治5年(1872)。その28年後の明治33年(1900)10月

町民が待ち望んだ日野駅

1日、日野―八日市間が開通しました。開業した当日のホームには櫓やぐらが建てられ、国旗や吹流しが飾られた中、多くの人が集まり鉄道の開通を祝い、喜びました。

開通当時建てられた日野駅舎は大正5年(1916)に建て替えられ、その後100年に渡り日野町の玄関口として多くの人を迎え、送り出してきました。築100年を超える現存する木造駅舎は全国でも数少なく、テレビドラマのロケ等でも多く使われ、



まちの心の玄関

近江鉄道日野駅舎



▲テレビや写真でも多く使用されました(写真は昭和49年当時のもの)

住民の皆さんや鉄道ファンの方から親しまれてきました。

次の世代へつなげる

多くの方を迎え、送り出してきた日野駅ですが、100年目を迎える平成28年、老朽化により改修が必要となりました。歴史ある日野駅舎をまちの「たから」として生かせるよう、地元住民の皆さんと町とで「日野駅利用促進活性化懇話会」を組織し、日野駅の今後のあり方等について話し合いました。検討の末、懇話会の出した結論は「100年培ってきた歴史と風格を大切に、次の世代につなげ、来訪者と地域の『心の玄関』として駅再生に取り組みむ」というものでした。



▲懇話会の様子

昨年11月から始まった「日野駅再生プロジェクト」では、地元の高校生による駅前での啓発活動や日野高校生による文化祭の売り上げの寄附等をはじめ、町内の皆さんはもとより、学生時代に日野駅を利用していただきた方や全国の鉄道ファンの方等、多くの方からご協力をいただきました。1月から始まった工事も終了し、人と人の交流が深まることを願い、日野駅の新たな歴史が始まりました。



▲啓発活動でビラを配る高校生



日野駅再生プロジェクトは3年間の計画です。すめらは平成29年11月から2年目のプロジェクトがスタートします。2年目の計画は、上りホームの上屋の改修です。

この建物は昭和40年に建てられ、テレビドラマのロケにも使われ、独特の味わいがある日野駅を象徴する建造物ですが、50年以上が経ち老朽化もすすんできていることから、耐震化も含めた早急な改修が必要です。

長い歴史と愛着のある日野駅の利便性向上と交流拠点の整備のため、引き続き皆さまのご支援とご協力をよろしく願います。